

2020 年度 学校自己評価

文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」にそって昨年度に続き、2 回目の教職員による学校自己評価を実施しました。また今年度より卒業生に対して、教育評価として満足度・到達度のアンケート結果を追加評価としました。集計結果を基に学校運営上の課題を明確にし、改善につなげるとともに、外部委員の参画による意見を取り入れ、受益者である学生の学習環境改善に努めてまいります。

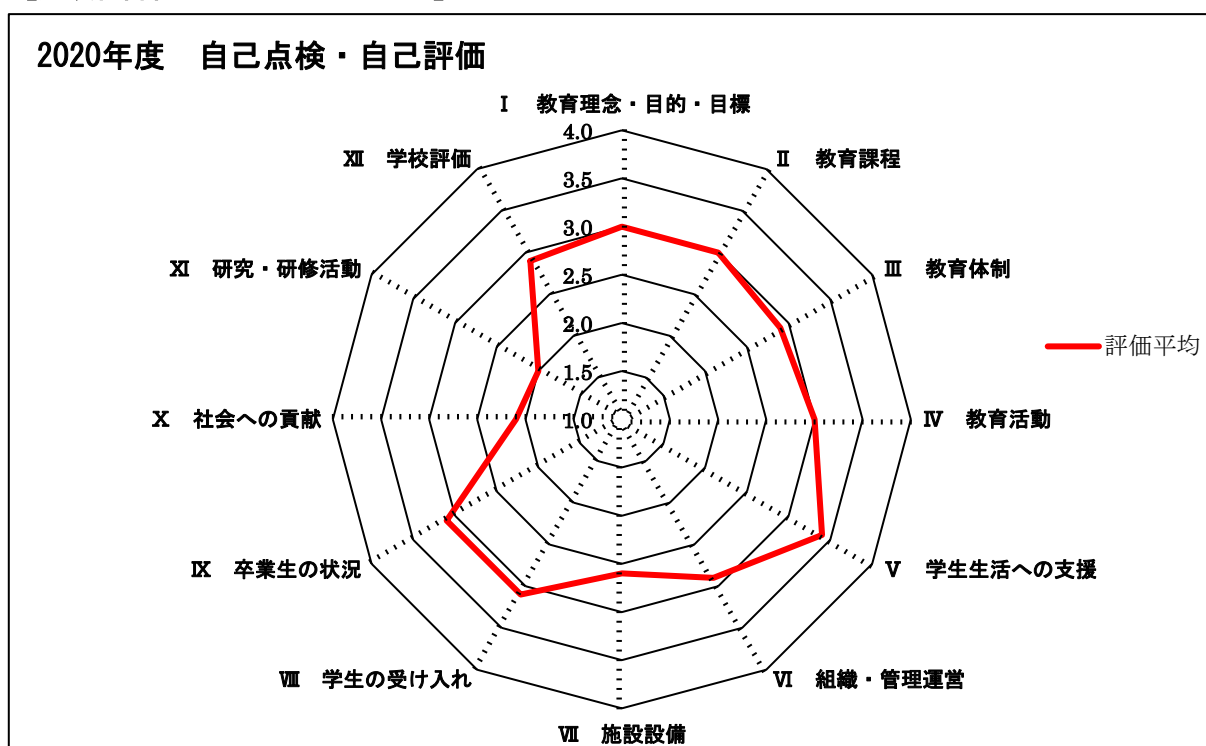
【大項目評価】

評価は右記の4段階とした 4：良い 3：やや良い 2：やや不十分 1：不十分

I	II	III	IV	V	VI
教育理念・目標	教育課程	教育体制	教育活動	学生生活支援	組織・管理運営
3.0	3.0	2.9	3.0	3.4	2.9

VII	VIII	IX	X	XI	XII
施設設備	学生受け入れ	卒業生の状況	社会への貢献	研究・研修活動	学校評価
2.6	3.1	3.1	2.1	2.0	2.9

【大項目評価のレーダーチャート】



【大項目評価の自己評価の要約と評価】

I 教育理念・目標

教育目標は、「学生便覧」に明示し入学時オリエンテーションで説明しているが、教員としては入学後日常の場面で、教育目標に具体的に触れ、意識した行動を促す機会は少ないと感じている。コロナ禍で双方向の指導や関わる機会が少なくなる中、学生・保護者への情報ツール（インフォクリッパー）を活用しながら、教育に対する姿勢を伝えていく必要がある。

卒業生満足度の「教育方針は明確に示されている」に対する評価は 3.9「そう思う」となっている。

II 教育課程

来年のカリキュラム改正のための準備作業を機に、教育目標・卒業時到達目標・科目の関連を話し合い、科目の位置付けを改めて再確認できた。次年度は現行のカリキュラムに対しても、委員会を有効に機能させ、教育課程を評価する体系を構築する必要がある。

卒業生満足度からは各分野の教育内容に関して 3.8～4「そう思う」となっている。

III 教育体制

今年度、内部教員は講義・演習に対してすべての科目の授業評価を実施することができた。それぞれの教員は授業の効果を上げる努力がなされ、学生からの評価はいずれも高い評価となった。外部講師に関しては、授業評価実施の理解を得、次年度からの実施が計画されている。この項目は昨年度と比較し、0.1 ポイント低くなっていた。最も低い細目は「効果的な教育方法の検討の場：2.6」となっており、次年度は領域毎に授業研究や模擬授業を開催し評価や助言をもらえる機会を持つことが有効と考える。

IV 教育活動

シラバス等の見直しは、領域毎に検討し授業計画や改善につなげている。今年度も新型コロナ対策のため、学生の主体的学習を十分サポートできたとはいえない。次年度は教材研究や視聴覚教材数の拡大を図り、効果的な授業を目指したい。最も低い細目は「日常的な教材研究の実施：2.6」であった。実習やコロナによる対応業務から講義前の十分な時間の確保が難しい状況が考えられる。

V 学生生活支援

学生に対する支援は他の項目と比較すると高い評価となった。健康管理に対する支援が細やかに提供されていることが伺える。最も低い細目は「中途退学者を少なくする支援：2.8」となっており、学習困難となる前に早めに察知し支援するために、次年度よりは「教育アドバイザー」として経験豊富な教員が個別にサポートする体制を計画している。

VI 組織・管理運営

学校運営上の決定は週1回の運営会議で、適時迅速な対応に努めている。教職員は、業務分掌に従って役割を実施し、検討事項は教員会議等で検討している。タブレットの導入や遠隔授業に向けた準備のために、プロジェクトチームを結成し、教員・学習が混乱なく導入できるように活動した。また、教員や学生が実習などで所在が分散状況であるため、情報共有のために学校情報ツール（インフォクリッパー）を活用して、学生への周知情報も確認できるようになった。前回同様、最も評価が低かった細目は「教員ラダーの活用：1.9」であった。キャリアアップを目指すために、個々の目標を明確にし、小さなステップであっても、達成できるためのサポートを職場として示していく必要がある。

VII 施設設備

設備は指定規則に則り、学生数に応じた数が準備され、モデル人形やシミュレーター教材は充実しているが、コロナ禍によって教室環境の見直しが必要となり、1Fホールや4Fホールを教室として使用せざるを得ないこととなった。ゆとりの空間が減少したことで、「憩いの場作り：1.9」と前回より、1.5ポイントほど低評価となった。限られた空間の中に、過密にならないスペースの工夫が求められる。前回と同様に低評価となった細目として「図書の増備の予算計画：1.8」が挙げられる。図書の必要性を吟味し、計画的に購入できるよう取り組む必要がある。

VIII 学生受け入れ

広報を中心に東北6県の高校訪問や進学セミナーなどの参加によって、学校説明を実施している。また高校からの要請で模擬授業を実施するなど、高校との連携を図り、志願状況や学生の傾向など広く情報を得て、学生支援に活かしている。コロナ禍ではあったが、過密を避けながら複数回にわけ工夫した上でオープンキャンパスを実施し、多くの機会で学校の周知に努力している。昨年に比較し受験倍率も大きく上昇している。

IX 卒業生の状況

2回生の国家試験合格率は95.8%であった。希望者には准看護師資格試験も受験させ、国家試験不合格の学生も資格を持って就職することはできた。卒業生満足度の「本校で学んだことに満足しているか」では4.3と高評価であった。

X 社会への貢献

学生自治会がないこと、ボランティアが組織化されていことから、当校のボランティアの件数は少ない。社会貢献としては、病院研修時に使用する教材の貸し出しに対応している。また、病院からの研修依頼があり、講師を行っている。

新カリキュラムの科目には「地域共生論」としてボランティア活動も体験できるように考えている。

XI 研究・研修活動

1 学年 3 クラスあることから、科目時間数に対して授業時間は 3 倍となる。教員は領域実習や学校行事、クラス担当、講義など多岐にわたり、特にコロナ禍における対応に多くの時間を有した。外部研修計画や機会が少なく、項目の中では最も低い評価となっている。引き続き今後の課題である。

XII 学校評価

2 回目の学校評価であり、初回より個々の評価のばらつきは少なく、評価項目に対する理解や課題が明確となってきたと考える。全体の評価は初回とほぼ同等か、環境や研修活動はむしろ低下していた。細目別に課題を明確にし、改善に向け検討していきたい。

2020 年度 葵会仙台看護専門学校 学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、葵会仙台看護専門学校の 2020 年度自己点検・自己評価報告書に対する学校関係者評価委員からの意見を取りまとめたものである。

2021 年 7 月 1 日

学校関係者評価委員

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の内容

- (1) 自己評価項目等の適切性
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

3 学校関係者からの評価意見

評価者：病院看護部長

- (1) 自己評価項目等の適切性

- ① 新型コロナウイルス感染症対策という新たな対応が必要とされ、さまざまな面に影響を及ぼし大変な年だったと考えられます。その中でも、細やかに学生に対する支援ができておりとても評価が高いと考えます。

- ② コロナ渦の中でも広報活動に工夫をこらして実施した結果、受験倍率が大きく上昇し学校運営上、評価が高いと思います。また、受験者が多いと能力の高い学生が獲得でき、臨床に質の高い看護師が就職してくれることにつながるため高く評価できます。
- ③ 「社会への貢献度」と「研究・研修活動」が低い評価となっていますが、コロナ渦の状況から考えると仕方ない面もあります。ただ、教員の方々には、病院の看護師教育にとても尽力して頂いており、社会貢献度は高いと考えます。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

自己評価の結果を踏まえて、今後の改善策が適切に考えられています。

ただ、「卒業生の状況」で国家試験不合格者も准看護師の資格を持って就職できた。とあり、その後のフォローはどうなのかという疑問は残ります。准看護師として働いていると、覚えることがありすぎて、中々、次の国家試験に向けての学習ができなくなってしまう傾向があります。加えて、同期や先輩方との楽しい時間や一人で学習しなければならない孤独感が学習の妨げとなり、中々国家試験に合格するのが難しくなります。「次は絶対合格する」という強い意志がないと准看護師のままで終わってしまうため、塾に通うとか学校に定期的に行って勉強する、教師が話を聞くなどの学校側のフォローも必要になってくるのではないのでしょうか。

(3) その他

- ① 実習場で、目を輝かせて多くのことを学ぼうと一生懸命な学生がいる反面、カンファレンスで集中できない学生もいるようです。また、記録が適切に書けてない学生もいるようです。学生の社会人基礎力や未熟な学生に対する教育、指導にも、今後、力を入れていってほしいと思います。
- ② 実習指導者が、学生と共に学び、楽しい時間を学校で過ごせる企画があるといいと思います。実習指導者は今の学生の特徴・考え方を肌で感じることができ、学生も実習場での緊張がほぐれるのではないのでしょうか。指導者と学生、教師の方々とのコミュニケーションを図ることが、いい実習につながるのではないだろうかと考えます。ただ、コロナの状況が落ち着いてからのことだと思います。

評価者：学校顧問

(1) 自己評価項目等の適切性

教育理念を入学時、学校紹介パンフレットに記述・説明し学生だけではなく保護者にも伝えていることは適切であるが、日ごろ具体的に行動につなげる機会があることが望まれる。教育活動は来年度のカリキュラム改正に伴い教育目標や卒業時到達目標において領域ごとに検討し、各科目の関連性などカリキュラムに関して深めることができた。さらに委員会活動にも反

映できたことは、今後の学校運営にも成果が期待できる。教育体制においては講義・演習に対しての授業評価を行ったことで、学生からも評価された。次年度から外部講師にも行っていく事は望ましいことである。教育活動は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、対面学習やそれに代わる効果的学習の工夫をしたが、十分できなかったという事で達成感を得られない状況である。学生生活支援では、検討学生に対する評価は高い評価となったが、中途退学者や学習低迷者に対して早めに察知するための努力が反省点となっている。今後においてクラス担任と連携して学生のサポートには個別に対応する体制作りを計画していることは望ましい対応である。組織・管理運営の学校での改善事項は明確になっている。施設設備は、学生受け入れには学校との連携をとっていることは適切である。卒業生の状況は把握している。社会への貢献、研修・研修活動、学校評価は今後に期待されるところである。

（２） 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

教育目標を学生便覧に明示したりオリエンテーションで説明したりしているが、教員は日常の場面での理念や目標の浸透は十分とは言えないと思っている。学生の卒業時アンケートでは教育方針が明確であったという評価であった。学生がどのような時そう感じたか答える場があると、今後の理念の浸透に役立つものと思われる。教育課程では今回はカリキュラム改正にあたり、教員同士が十分討議し科目間の関連を知った上で教育に生かすことができた結果、学生の満足が得られたことと推察する。教育体制では、内部教員は授業評価を実施しているが、次年度は外部講師にも実施したいとのことで授業の改善に役立つものと思われる。教育活動は新型コロナウイルスのため学生に十分に関われなかったことが、達成感が持てない結果となっていると思われる。学生支援は中途退学者や学業低迷者を出さないための働きかけが望まれるが、次年度の対策ができているため実施した効果が期待される。組織管理は、もう一度各自の役割遂行の原点に戻り目的を実践に移し行うことは重要である。施設設備ではコロナ禍でゆとりの場がなくなったことや、図書の充実を図ることが挙げられている。学生受け入れでは、過密を避けながらのオープンキャンパスや周囲へ学校の存在を周知していることが評価され受験者が伸びている。卒業生は国家試験合格率 95.8%であり、学校で学んだことに満足している。社会への貢献や研究研修活動についてはコロナ禍の影響もあり、外部への働きかけができなかったので今回は真の評価と言えないと思われる。今年度の学校評価の特徴は、評価項目に対する理解が初回より出てきてばらつきが少なく、課題が明確になったことは今後の各分野の改善の方向性が明確となり期待できるが、改善の優先順位を付けての取り組みが目標をより明確化する上に重要である。

（３） その他

今年度は新型コロナウイルス感染症の禍の中で、看護学生の学びの形成で不可欠である臨床実習が十分行えない状況の中、いかに学問と臨床及び実技をつなげ深めるかが課題の1年であった。教員全員が苦悩し、今までの看護の教育で経験したことがない事態であったと思う。看護の教育は3年間の締めくくりが国家試験であり、学生個人にとっては3年間学ぶ目的であると言える。経験がない中でも国の平均合格率より上回ったことは、一つの成果と言える。来年

度はさらに上を目指すことが望まれる。本校独自の取り組みとして、いまだ他校での取り組みをした発表のない教員の組織編成の取り組みとして、経験豊富な教員の経験の浅い実習担当教員の指導係や、既卒者で次年度国試受験者の対策を講じるなどの手厚い支援の役割を担う教員をつけるなど、学生のみならず教員にもきめ細やかに組織作りをしていることはとても評価できる。この結果を評価し研究・研修活動に役立てることを期待する。

【総評】

初回同様コロナ禍により学校関係者評価会議は、委員が一堂に会することがかなわず、各委員の書面により集約することとした。

当该校は、2回目の卒業生を輩出し、学校自己点検・自己評価も2回目である。今回は教職員評価に加え、卒業生による評価も実施された。卒業生評価では到達度・満足度とも高評価であり「Ⅻ 学校評価」も向上が見られた。しかし、前回同様「Ⅹ 社会への貢献」「Ⅺ 研究・研修」は低評価であり、具体的な対策が求められる。

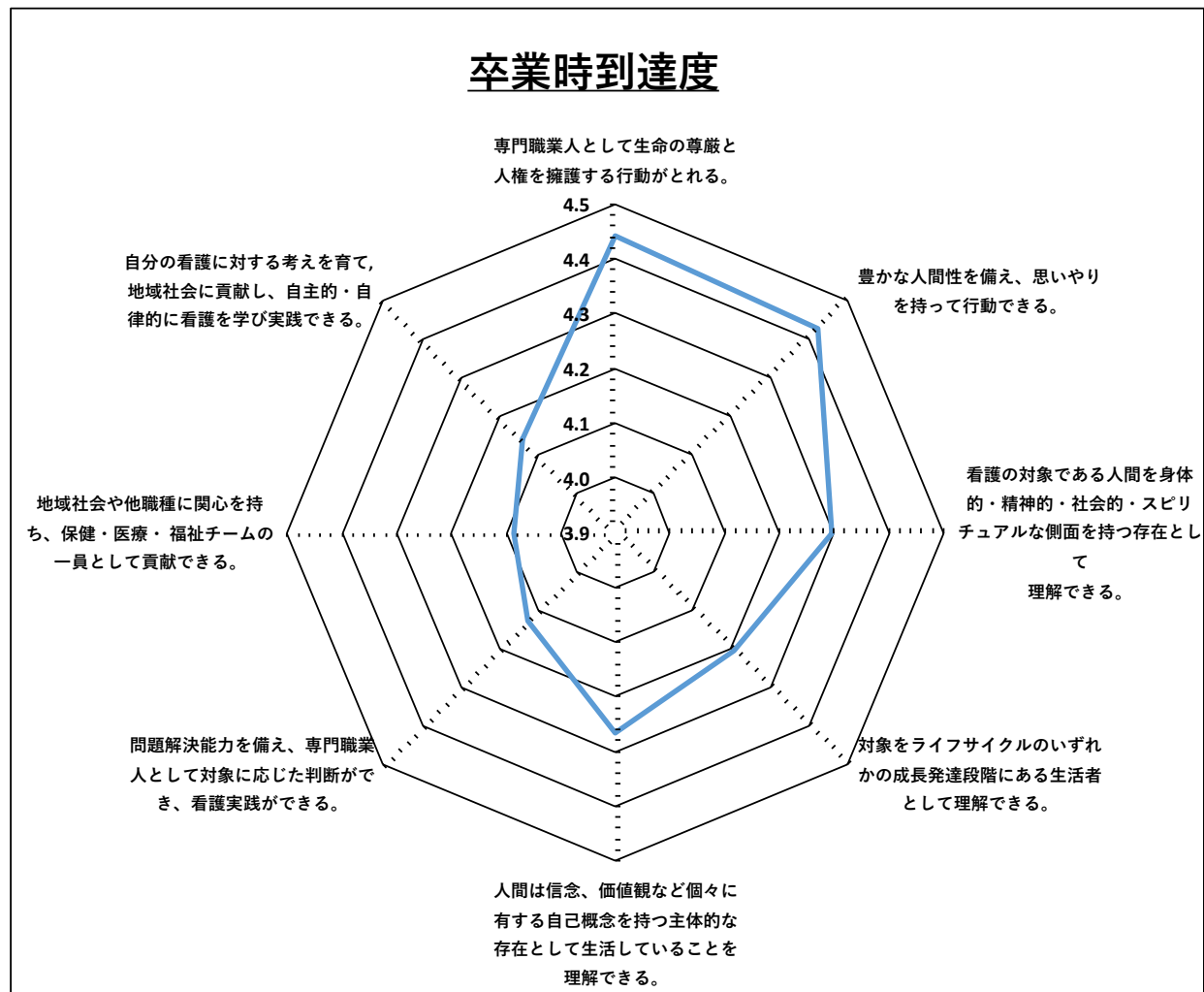
今後とも、看護教育をめぐる諸情勢・諸動向を注視しながら、今回の点検で明確化した諸課題を一つずつクリアーしていき、ますます地域社会に貢献できる学校であり続けることを願う。

【参考資料】

卒業時到達度（2021年3月卒業生（2回生）アンケート調査結果）

	教育評価（卒業時到達度）	平均
1	専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。	4.4
2	豊かな人間性を備え、思いやりを持って行動できる。	4.4
3	看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在として理解できる。	4.3
4	対象をライフサイクルのいずれかの成長発達段階にある生活者として理解できる。	4.2
5	人間は信念、価値観など個々に有する自己概念を持つ主体的な存在として生活していることを理解できる。	4.3
6	問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。	4.1
7	地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。	4.1
8	自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる。	4.1

5:到達できた 4:少しできた 3:どちらともいえない 2:あまり到達できていない 1:全く到達できていない



卒業生満足度（2021年3月卒業生(2回生) アンケート調査結果）

	教育評価（卒業生満足度）	平均
1	教育方針は明確に示されている	3.9
2	基礎分野の教育内容に満足している	4.0
3	看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在として理解できる。	4.0
4	専門分野Ⅰの教育内容に満足している	4.0
5	専門分野Ⅱの教育内容に満足している	3.9
6	統合分野の教育内容に満足している	3.8
7	実習の教育内容に満足している	4.0
8	わかりやすい授業が多い	3.7
9	専門的な知識が学べた	4.2
10	専門的な技術が身についた	4.0
11	シラバスと授業内容は概ね一致している	3.8
12	学習するための教材及び図書は十分である	3.8
13	国家試験対策に満足している	4.2
14	個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている	4.1
15	健康管理体制に満足している	4.1
16	授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている	4.1
17	学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である	4.3
18	全体を通して、本校で学んだことに満足している	4.3

5:大いにそう思う　4:そう思う　3:どちらともいえない　2:ややそう思う　1: 思わない

